

3 名詞の使い方

1 単数形と複数形

英語の名詞の使い方は、日本語の名詞と比べて、少し面倒です。このことを説明します。まずは次の2つの文を見てください。

- (1) そのライオンは、シマウマにとびかかった。
- (2) シマウマが群れをなして走っている。

(1) のシマウマは1頭です。(2) のシマウマは複数(2頭以上)です。このように数の違いがありますが、日本語では、名詞の数が1つでも、複数でも、名詞をそのままの形で用いることができます。1頭だからといって、いちいち「1頭のシマウマ」と表現する必要はありませんし、2頭以上だからといって、必ず「シマウマたち」などと言う必要はありません。

ところが英語では、数の違いによって、名詞の使い方を変えなくてはならないのです。次のように使い分けます。

- 名詞が1つの場合 → 「a 名詞」という形で用いる。
- 名詞が複数の場合 → 語尾に ^{ごび}-s を加えて「名詞s」という形で用いる。

「語尾」とは、「単語の終わりの部分」という意味です。

そして「a 名詞」を単数形たんすうけいといい(aと名詞は離して書きます)、「名詞s」を

複数形ふくすうけいといいます。

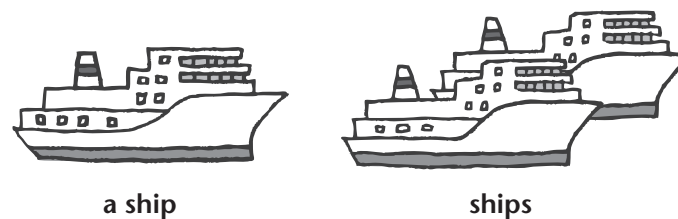
それぞれの具体例を見ましょう。

ship (船) → a ship <単数形> ships <複数形>

bird (鳥) → a bird <単数形> birds <複数形>

cat (ネコ) → a cat <単数形> cats <複数形>

ship を例にとって、単数形と複数形を絵で見てください。



2 単数形に関する「例外の規則」

単数形については、例外の規則を1つおぼえなくてはなりません。

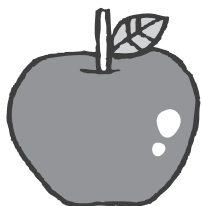
単数形の「例外の規則」

名詞の先頭のアルファベットが母音ぼいん(a, i, u, e, o)である場合は、aではなくanを用いる。

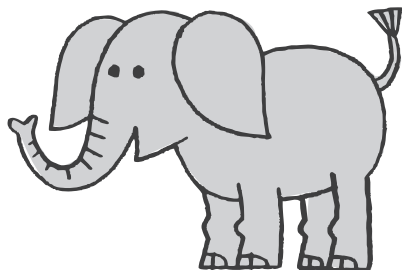
具体例を見ましょう。

- apple (リンゴ) の単数形 → an apple
- idea (アイデア) の単数形 → an idea
- uncle (おじ) の単数形 → an uncle
- elephant (ゾウ) の単数形 → an elephant
- orange (オレンジ) の単数形 → an orange

2つほど絵で例を見てみましょう。



an apple



an elephant

3 複数形に関する「例外の規則」

複数形についても例外の規則があります。これは量が多いので、すぐにはおぼえられません。本書の中で、何度も確認しながらいっしょにおぼえていきましょう。

とりあえず、次の①～③に目を通してください。

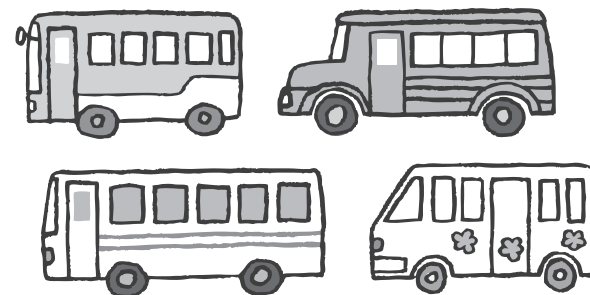
複数形の「例外の規則」

- ① ch, o, s, sh, xで終わる動詞には、-esを加える。
- ② 「^{しいん}子音+y」で終わる動詞は、yをiに変えて、その後ろに-esを加える。
※「子音」とは、母音(a, i, u, e, o)ではないもの。
- ③ f, feで終わる語は、f, feをvに変えて-esを加える。

例を見ます。まずは①です。右端に和訳を示します。

- a bench 〈単数形〉 → benches 〈複数形〉 (ベンチ)
- a tomato 〈単数形〉 → tomatoes 〈複数形〉 (トマト)
- a bus 〈単数形〉 → buses 〈複数形〉 (バス)
- a brush 〈単数形〉 → brushes 〈複数形〉 (ブラシ)
- a box 〈単数形〉 → boxes 〈複数形〉 (箱)

絵を見てみましょう。busesの例を見ます。



buses